

川柳 さいたま

総会の社告



会津磐梯山

2020年（令和2年）
2月号（No.723）

日川協加盟

巻頭言

目線（めいせん）

願法（ねんぽう）みつる

ある人曰く、各種の社会活動で何らかを手段として自己表現したいとか、独自の個性的な方法を確立したいと願うものに共通な性格的特徴は、我が儘なことである。そして他人から管理されることを嫌う。同時に、彼らの目線は低く保たれている。と。我が儘ビトの目線とは面白い。成る程言い得て妙、惚けの進んだ頭脳にもずんと響く納得の警策である。アフガンで亡くなられた中村医師や学生野球の指導者へ転身したイチロー選手なども、そのような方だったのかも。特異な技能や知恵への興味を有しながら、努力思考への情熱が並のレベルではない方々なのだ。所謂凡人の域を超越していると言っことか。

だが静かに見渡せば、そんな場面は等しく誰の身の回りにもある当たり前の事なのだ。気が付く。つまり自身自身のレベルでもあるのだ。平凡な一市民の姿勢・心の持ち方でもある。日日蟻のように働き生きるものにも、等しいことであると気が付く。目線の据え方ひとつの差ではないか。庶民みなが、独自であり我が儘で良いのではないか。

川柳人（という同好種族）もまた、川柳世間では個性的ではあるが、そこその波風で満足している。ただ一部自棄に派手な表現や主張に走る者もいる。歴史に名を残す芭蕉や其角に倣おうとでも努めているのだろうか。そんな目線の在り様も好き好きなのだろう。

日日是好

願法（ねんぽう）みつる

蟻んこの目線に文句言われても

ひな壇を登ると胸が反ってくる

教壇をなくし教師がへりくだる

入院で知る心地よい高御座

地に置いて欲しい棺と遺言書